

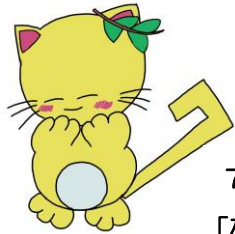


学校教育目標 進んで学ぶ子 仲良くできる子 たくましい子  
児童数 男子490名 女子476名 計966名

TEL (048)222-4383

FAX (048)222-9388

①っかりと聞き・②くわく未来を語り・③すんで学び・④れにも仲良くできる しわすだっ子



70周年記念マスコット  
「ななまる」

## タイムカプセル ～ 10年後の自分へ ～

校長 石井 宏明

創立70周年記念事業の一環として「10年後の自分へ」という手紙を書きました。

その手紙をタイムカプセルに封じ、10年後に開封となります。

しわすだっ子たちは、自分に宛ててどんな手紙を書いたのでしょうか。

「なっていて欲しい自分像」「今の自分のこと」興味は尽きません。

10年後、6年生は22歳。大学生やすでに社会人となって働いている子もいるでしょう。

1年生は17歳。高校2年生。よりレベルの高い学業や部活動に夢中になり、将来の職業選択に悩んでいる時期かもしれません。

それぞれの子が10年後に、その手紙を読み、本校での学びを思い出し、懐かしく感じたり、仲間との再会を喜び合ったりしてくれることを期待せずにはられません。

ジャン＝ジャック・ルソー(1712～1778:スイス)は、著書である「エミール」のはじめの方で、「最も多く生きた人とは、最も長生きした人ではなく、生を最も感じた人である」と述べています。

生きていることの充実感や喜びをより大きく得るためには、毎日をすんなりと過ごすより、適度なハードル(悩みやキツさ等)があった方がよいと考えております。

そうしたハードルにぶつかること自体が、様々な感情や思考を呼び起こし、二者択一の判断をし、その結果を受け入れることにより、「生きていること」を実感しやすいと感じております。

そのためには、敢えて「小さなハードル」を用意してあげることも必要です。

また、子供たちが自力で乗り越えられそうもない時には、私たち大人や同年代の仲間がその心情に寄り添い、サポートし、子供たち自身が「乗り越えられた」という実感、経験をさせてあげることが必要です。

こうしたことの積み重ねが、変化の激しい現在～未来社会を生き抜く、正に「未来を拓く」しわすだっ子の育成につながると考えております。

今後10年。子供たちがどう生きていくか、どう成長していくか、楽しみでもあり、心配でもあります。

「負けないで、泣かないで、消えてしまいそうな時は、自分の声を信じて歩けばいいの」

「いつの時代も悲しみを避けては通れないけれど、笑顔を見せて今を生きていこう」

(「手紙」作詞：アンジェラ・アキより)

しわすだっ子の未来と十二月田小に関わるすべての人に幸あれ。